

# 活動ピックアップ!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 長岡 みんなのSDGs

小国  
地域  
Oguni

小国観光協会よっていがんかい  
写真コンテスト実行委員会  
写真を通して小国をPR!



長岡市小国町の認知度を上げるため、小国地域内に限定した美しい風景などの写真を募集し、表彰と展示を行っています。新しい試みとして、2022年よりInstagram部門を立ち上げ、更に今年は、若者の感性を取り入れるため、長岡造形大学の学生さんに審査員に加わってもらいました。これからも、この写真コンテストが小国地域のPRにつながるように工夫をこらしながら、開催していきます。

7  
エネルギーをみんなにも  
もてこたえよう

株式会社 パンタレイ

風の力を操り社会を豊かにする



大学の研究開発成果を社会問題の解決に活かす使命があると感じ、長岡技術科学大学の大学発ベンチャーとして創業。全く新しい原理を用いた小型風力発電の事業などを展開。弊社の風力発電は従来の製品よりもゆっくり回転しながらも力強いので、安心安全に安定して電気をつくることができます。社会がより豊かになるように、誰もが手軽に風力発電を使える未来を実現したいです。

知る、つながる、好きになる  
ながおか市民活動情報誌



## 市民活動 虎の巻

研究テーマ

### 市民活動でとことん使う「LINE」活用のキモ!

国内最大のコミュニケーションアプリLINE(ライン)。今では日本の人口の約70%がユーザーというだけあって便利な機能がたくさん。今回は、市民活動を切り口に、やりとりするメンバーや目的で使い分けたいおすすめ機能をご紹介します。

その1

内部でとことん共有する!  
LINEグループ

おすすめの使い方 プロジェクトメンバーや運営のコアメンバーなど内部での連絡・情報共有

複数の人たちとのチャット会話に便利なのが「グループ」です。チャットはもちろん、打ち合わせた内容を「ノート」に書き留め、いつでも見ることができる機能もあります。また「アルバム」でイベント写真の共有や「日程調整」担当を「あみだくじ」で決めるという実用的で楽しい機能も。他にも、複数人とのビデオ通話には「LINEミーティング」が便利です。発行したURLをクリックするだけで通話できます。

その2

活動を外にとことん広める!  
LINE公式アカウント

おすすめの使い方 団体の支援者やファン、大衆に向けた告知・募集などの情報発信

企業や店舗がアカウントをつくり、友だち追加してくれたユーザーに直接情報を届けられるサービスで、市民活動団体としての利用も可能です。団体のアカウントを作成し、イベントの告知や活動レポート、メンバーや協力者の募集といった情報発信を行うことができます。まずは「団体の情報がほしい」と活動に興味をもってもらうことが大切です。公式アカウントのQRを団体パンフレットやチラシに印刷するなどして登録してもらるように準備しましょう。

もっと詳しく知りたい方向けに、YouTubeでも解説しています!



センターからのお知らせ

### 団体同士のマッチングをサポート 協働マッチングリスト2022

「協働マッチングリスト」は、協働センターに登録した団体のうち、「協力できること」と「協力してほしいこと」の公開を希望した団体のリストです。他の団体とコラボしたい方や地域活動に関わりたくい方、イベント参加や寄付で団体の力になりたい方は、ぜひご覧ください!

入手方法

- 協働センターホームページ「コライト」からダウンロード。QRまたは、ホームページにあるバナー「協働マッチングリスト」からアクセスしてください。
- 協働センターで受け取る(数に限りがあります)。



発行

ながおか市民協働センター

〒940-0062  
長岡市大手通1丁目4番地10  
シティホールプラザオーレ長岡 西棟3F  
Tel. 0258-39-2020  
Mail . contact@nagaokakyodo.net



「+カ」  
らこって

「+カ」  
つながる  
ラジオ

「+カ」  
市民活動の  
ポータルサイト  
コライト

配布場所

長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。



あなたの「好き」が  
地域の笑顔に

特集  
股旅あい好会  
長岡婦人フォークダンスクラブ アンティーズ

NAGAOKA PLAYERS  
高橋 一寿さん

活動ピックアップ  
おぐに観光協会よっていがんかい 写真コンテスト実行委員会

長岡みんなのSDGs  
株式会社 パンタレイ



ながおか市民協働センター



# あなたの「好き」が地域の笑顔に

皆さんにとって日々の生活を充実させ、人生を豊かにしてくれるものは何ですか。家族や友達、仕事、様々な答えがあると思いますが、その中でも多くの方が思い浮かべるものの一つが「趣味」ではないでしょうか。事実、「ハマる」ほどの趣味がある人は、そうでない人に比べて幸福度が高く、仕事にやりがいを感じていると言われています<sup>※1</sup>。しかし、あなたの趣味で笑顔にできるのは、あなた自身だけではありません。その趣味を活かすことで、誰かに喜んでもらったり、地域に貢献したりすることができるのです。

## 行く先々で笑顔を送る 股旅あい好会

高齢者センターやコミュニティーセンターなどの各種施設、お祭りや敬老会などのイベントで、軽演劇や創作舞踏、カラオケやマジックショーなどの公演を行っている股旅あい好会。男女愛や地域愛、出会いなど、様々な「あい」を大切にしたいというその団体名の通り、様々な場所にいる人に会いに行き、愛と笑顔を届けています。



十日町コミュニティセンターでの公演の様子。お客さんの中にはスマートフォンを構えて、写真や動画を撮る人も。



舞踏やカラオケ、マジックショーなど様々な演目を披露。演目ごとに変わる衣装も楽しみのひとつ。

## 地域に愛される一座が生まれるまで

始まりは、1996年。団体の代表であり座長でもある葵新之介さんが、同級生からの依頼を受け高齢者センターで股旅舞踏を披露した様子が、長岡新聞に掲載されて話題に。その翌年1月に、2人のメンバーと「股旅あい好会」を立ち上げました。以来多いときには年間60ヶ所を回り、「また来てほしい」という言葉をかけられたり、終演後握手をしたまま手を離さないお客さんがいたり、多くの人から愛されてきました。

## 巡業を大切にする 団体のモットー

設立から26年を迎えますが、身体が動くうちは続けたいと、お芝居や踊りの勉強や練習を欠かしません。その力の源はどこにあるの

でしょうか。葵さんはこう話します。「私たちは、盲目のエレクトーン奏者・大島彰氏の『人のため何かして その人の喜ぶ姿を見て 最後に自分が喜べばいい』という言葉をもとに活動しています。私たちはプロではありませんが、一生懸命心を込めて演じることで、伝わるものがあると思っています」。

## 長岡のフォークダンスサークルといえどここ！ 長岡婦人フォークダンスクラブ アンティーズ

何と今年で設立から44年！「長岡婦人フォークダンスクラブ アンティーズ」は、色鮮やかな衣装を纏った女性70人余りが毎週火曜日に集まり、フォークダンスを練習している団体。年齢や地域ごとに新たな会が独立して活動しており、まさに長岡のフォークダンス界を牽引している存在です。

## 講習を通してフォークダンスの輪を広げる

アンティーズは、1978年に設立者の岡玲子さんが、女性が参加しやすい日中開催のサークルとして立ち上げ。当時は主に岡さんなどが講習をしていましたが、徐々にメンバーも指導資格を取得。今ではメンバーの約半数が資格を持ち、イベントでダンスを披露するだけでなく、初心者向け講習会でフォークダンスの輪を広げています。



「市民活動フェスタ」で披露した、踊りながらリボンを編み上げていくダンス。

## 講習することで得られるもの

ダンスを教えるのは、仲間と一緒に踊る楽しさやダンスを通して様々な国の文化に触れ



2015年に開催された「レクリエーションフェスタ」で、参加者や加盟団体と一緒にフォークダンスを踊っている様子。

る楽しさを一人でも多くの人に伝えていきたいから。しかし岡さんによると、理由はそれだけではないそうです。「例会で講習をする役割は、メンバーの中で順番に回しています。教え方は担当者に任されているので、担当者は歴史を調べたり、教え方を研究しなければいけません。そうすることで、メンバー一人ひとりが主人公になることができ、スキルアップにつながります」。

## 「好き」を活かす市民活動

趣味や好きなことは、一人でやっても十分楽しいものです。しかし誰かの前で披露したり、誰かに教えたりすることで、その相手を笑顔にできるだけではなく、自分がその活動を続けるやりがいにもつながるということがわかりました。そして、それが市民活動として行われることで、経済的・地理的な条件に制限されず、より多くの人にその楽しさを届けることができます。今あなたが一人であたためている「好き」は、誰かの笑顔の種かもしれません。あなたのその「好き」を活かす活動を、始めてみませんか。

※1 「趣味とライフスタイルに関する意識調査(2017年12月)」株式会社トライバルメディアハウス



誌面に載せきれなかった、「好き」を生かして地域を笑顔にしている団体を掲載！



## 股旅あい好会

1997年設立。施設やイベントで、演劇や舞踏、カラオケ、マジックショー、民謡など多種多様な芸を披露しているボランティア演芸団体。



## 長岡婦人フォークダンスクラブ アンティーズ

1978年設立。毎週火曜日にフォークダンスを練習。ダンスの練習だけでなく、曲の背景や振り付けの意味を知ることにも楽しみのひとつ。

# NAGAOKA ウワサのあの人にインタビュー！ PLAYERS

高橋 一寿 さん

68歳 / 中興野防犯事務局

1954年長岡市中之島生まれ。防犯活動のほかに50歳以上が参加できる「中興野活き意気クラブ」を立ち上げるなど、長年地域活動を続けている。



## 想いをかたちに 地域を守る長年のパトロール活動

長年、地域のパトロール活動を続けてきた高橋一寿さんは、子どもから高齢者までに「ダニエル」の愛称で親しまれています。防犯活動を始めたきっかけは、1990年頃に地域で不審者が出て、怖い思いをした小学生がいたのを耳にしたこと。当時のPTA役員10人ほどで約1ヶ月の見守り活動をしました。「幸いにも活動を始めた後は、

被害が出ませんでした。そこで気づいたのは、見守り活動が抑止力となり、自分たちで地域を守れるということです」。

2004年の7.13水害で被災した中興野地区では、不審者の出没や盗難被害がありました。そこで高橋さんが思う「自分たちで地域を守る」を実現するため、まずは個人でパトロールを始めると、地域内で危険に感じ

る場所が多いことに気づいたそう。そこで2005年に地域を守る組織として『中興野防犯事務局』を設立しました。「新しいことへの反発もありましたが活動を継続し、地域の人に防犯に対する意識をもってもらうことで、組織として長く活動しようと考えました」。

活動を長く続けるために高橋さんがメンバーへ伝えているのが「無理せず、できる人が、できるときに、できること」です。ウォーキングや犬の散歩など日常生活の中でお揃いのジャンパーや帽子を被りパトロール。20～80代の幅広い世代が参加したいときに参加できる定例の

“飲みニケーション”を重ねたことで、何でも言い合える関係性をつくっていきました。「一つひとつ理解してもらいながら、地域内で防犯への意識を高めることができました。結果的に不審者が出たという情報は出なくなり、高齢者を狙った詐欺行為も減少しました」。

良い仲間がいたから長く活動を続けることができたという高橋さんは、これからの地域を考えていく中で、新しいアイデアの必要性も感じています。「私はやりたいことを全部やってきました。これからの若い人には、私では思いつかないことをみんなで考え、新しいことにチャ

レンジしてもらいたいです」。出てくる杭を心待ちに。高橋さんの地域を守るパトロールはこれからも続いていきます。



2006年には民間としては県内初の「青色防犯パトロール」承諾を受けました。